

薬用植物よりどりみどり

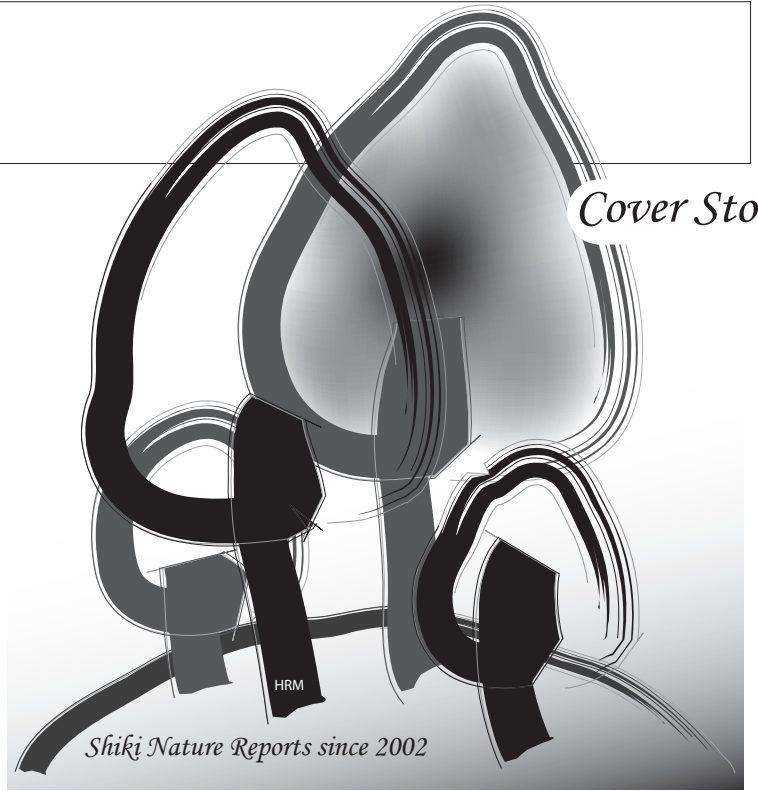
具合が悪いとき、ドラッグストアに行けばたいてい必要な薬は手に入る。現在のようなインフラが整備される前、一般庶民にとって薬は高価であり、簡単に手に入れられるものではなかった。そのため、生きる知恵として身近に手に入る材料を使って薬とする「薬用植物」というジャンルが確立した。最近の校内は植物（特に草本）が繁茂してくれているおかげでそれらを認識しやすくなった。薬効を示すものには化学的実体があり、用量・用法で文字通り、薬にも毒にもなる。臨床試験を通じて市販化されている薬と比較すると効果では大きく劣るが、古の人々の健康を支えたことは間違いない。知識として知っておくことは悪くない。最近行なった開花中+生育中

の植物のリストを見ても、次のものは薬草としての効果がこれまでも認められている（より厳密なものは「日本薬学会」のウェブサイトを見ると良い）。木本（樹）を除いても、これだけある。

イヌタデ、イヌホオズキ、ヒナタイノコヅチ、カラムシ、オオバコ、オニタビラコ、カタバミ、ギンギシ、キツネノマゴ、クズ、シソ、ヤブラン、ヤブガラシ、セイタカアワダチソウ、ブタクサ、セイヨウタンポポ、カラスウリ、コニシキソウ、ダンドロボロギク、ノビル、ノボロギク、ツユクサ、ドクダミ、ヘクソカズラ、ミズヒキ、ヒルガオ、ヨウシュヤマゴボウ、ヨモギ…

生薬の薬局でも開こうか….

(Miyahashi)



Haiku

【秋の句】

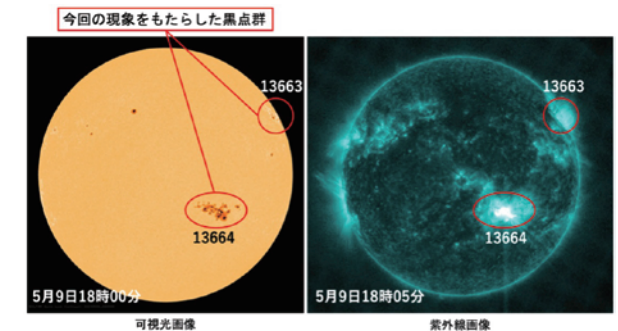
空模様秋めく風に流されて	えのこ草となりの人にちよんとして	静けさに耐えきれず鳴く法師蟬	風の手が触れてこぼれし萩の花	秋蟬の鳴き声徐々に遠くなる	秋の日がおもりとなつてのしかかる	雑草に負けずに伸びて稲穂つく	刺す風に咲く一輪の彼岸花	帰り道見えぬ花火の音を聞く	青トンボ黒板消しでひと休み
井上陽翔	土田翔太	根城侑史	田中信太郎	二木大地	佐藤凌真	安藤佑真	本島健汰	本田健朔	吉澤光穂

(Maekita)

2024年5月11日（日本時間）全地球的にデリンジャー現象がおきました。太陽のフレアとよばれる爆発により膨大なエネルギーが、強いX線や紫外線、太陽風と呼ばれる電離した粒子の流れ（高速プラズマ流）という形で放射されます。太陽-地球間は1億5千万キロメートル離れていますが、X線や紫外線はほぼ光の速さ、すなわち1秒間に30万キロメートルで進みますから、割り算して500秒=8分20秒で地球に到達します。太陽風は通常およそ毎秒500キロメートルですが、フレア発生時は2～3倍に加速され、翌日～翌々日に到達します。一方で、これらは地球にも入ってきて超高層大気にある電離層を擾乱し（かき回し）、通信障害等を引き起こす、これがデリンジャー現象です。

今回も実際、電波の通信障害の他、GPSの精度低下や一時的な遮断、人工衛星が数百メートル低下した等の障害が起きました。特に今回目立ったこととして、極域を通る航空機が航路変更をせざるを得なかったことが挙げられます。電離した粒子は地球の磁力線（N極-S極をつなぐ線）に沿って入ってくる性質があるため、北極や南極付近には太陽風がより低高度まで到達します。プラズマ粒子を大量に浴びることは人体に有害ですので、乗務員の健康を守るために極域を通らない航路、例えば日本からヨーロッパに行く場合には北極を通らずに南回り、いまはロシア上空も飛ばませんから、バンコク（タイ）、デリー（インド）を経由した便があったそうです。

太陽観測衛星SDO（NASA）で観測された太陽画像



可視光線（黒点）

紫外線（フレア）

情報通信研究機構 宇宙天気予報 <https://swc.nict.go.jp/>

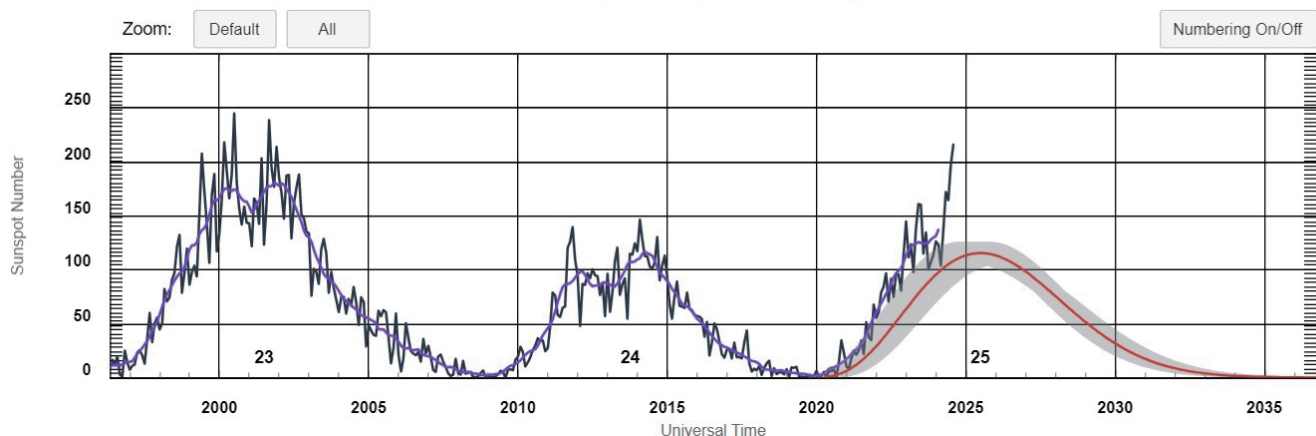
今回、地球にデリンジャー現象をもたらしたフレアは太陽黒点群13663と13664の領域で発生しました。じつは、黒点があるところでフレアはよく起こります。

フレアにはA, B, C, M, Xクラスがありますが、5月9日～13日にかけて最強ランクのXクラスフレアが13回も起きました（当然小さなフレアも多数起きています）。

太陽は約11年の周期で活発になることが知られています。ガリレオ・ガリレイが望遠鏡を自作し1610年に太陽表面に黒点があることを初めて発見しました。黒点数の数値化を考案したのがチューリッヒ天文台長のウォルフで1849年のことでした。ウォルフの黒点相対数は、時代をさかのぼり1755～1766年を第1期とし、現在は第25期です。グラフは最近の黒点相対数（縦軸）の経年変化と予測（横軸）です。黒点の増減を見れば、おおよそのフレアの頻度を予測でき、デリンジャー現象に備えることができる。そんな発想から「宇宙天気予報」と称して世界中で太陽をモニタリングしています。第25期は予測を大幅に上回りそうですね。

最後に、今回のフレアは2003年以来の最も激しい磁気嵐も引き起こしました。フレアが起きると太陽風が地球の磁力線に沿って入り、地球の大気成分である窒素や酸素と反応（励起）して光ります。この大気の発光現象がオーロラです。上空の風でゆらゆら光のカーテンが揺らぎます。スコットランドでは「北の空（北極方向）ではなく南を見なければオーロラが見えなかった。」[nature, vol. 629, 736 (23 May 2024).] そうです。日本は緯度が低いので地球が丸いために、北極に出ているオーロラの上の方だけが地平線付近で時折見られます。これを低緯度オーロラといいます。今回のフレアでは、北海道をはじめ北陸の能登でも観測され、日本で広く低緯度オーロラが見られたことがニュースになりました。私の知り合いが北海道で低緯度オーロラの撮影に成功し、ニュースに出ていました！

ISES Solar Cycle Sunspot Number Progression



太陽黒点相対数の経年変化（現在以降は予測曲線）

黒点はおおよそ11年周期で増減する。現在、黒点観測開始後25周期目のピークにさしかかっている。

英一蝶（1652-1724）という江戸時代の絵描きを知っているだろうか。知らないと読むのも難しいかもしれないが、これで「はなぶさいっちょう」と読む。様々なジャンルの絵を描いたが、突然の夕立に雨宿りする市井の人々など、特に同時代の都会風俗を描いて人気を博した。この一蝶の展覧会「没後300年記念 英一蝶^{ふうりゅうさいし}風流才子、浮き世を写す」がいま六本木のサントリー美術館で開催されている（11月10日まで）。15年ぶりの一蝶展で、これまでで最も多くの作品を集めた大回顧展である。

一蝶は、絵描きとしては珍しい経歴の持ち主としてよく知られている。すなわち、数え年47歳の時に島流しになり、58歳で江戸に帰るまで、伊豆の三宅島^{しやうるいあわ}に長く暮らしたことである。最初に捕まって牢に入れられたのは元禄6年（1693）。時の将軍は徳川綱吉、生類憐れみの令の時代である。『流人帳』は一蝶の罪状について「馬之物言候事」と記す。「馬之物言」とは当時流布した一種の諷刺文学で、これが生類憐れみの令をあざける内容だったらしく、幕府はその作者捜しに躍起になった。この時は間もなくゆるされ、真犯人は翌年捕って斬首になったため、嫌疑は晴れたはずだが、その5年後、一蝶は再び捕まり、今度は三宅島に流されてしまう。実は捕まった理由は別にあったのである。

この配流の真相については江戸時代から諸説があったが、現在有力な説は次の通り。一蝶は二度とも仏師民部、村田半兵衛とともに捕まっているが、この3人は太鼓持^{たいこもち}としても知られた存在だった。大名・旗本を吉原の遊郭に誘っては散財させ、彼らの浪費放蕩を先導^{けんどう}したので、幕府から目を付けられていた。それが元禄6年、同11年と二度にわたり、将軍綱吉の母・桂昌院^{けいしょういん}の縁者を誘い、さらには遊女を身請けさせるなどしたため、島流しの厳罰に処されることになったというのである。なお、島流しは本来無期刑だが、流されて11年後、綱吉死去に伴う将軍代替わりの恩赦により、一蝶は江戸に戻ることができた。表向きの罪状が「馬之物言」で、前将軍に絡むものだったのが幸いしたらしい。

ただ、一蝶の三宅島での暮らしは普通の罪人とはやや違ったようで、島でも江戸から依頼を受けて絵を描いている。送ってもらった絵の具を節約して描き、それを使って島の人々の依頼にも応じた。興味を惹かれるのは、すでに記憶の中にしかないはずの吉原での遊興も描いていること。江戸から遠く離れた地で、帰る見込みもない中、どんな思いでそんな絵を描いたのか。

先に「15年ぶりの一蝶展」と書いたが、15年前の展覧会とは、2009年に板橋区立美術館で開催された「一蝶リターンズ—元禄風流子英一蝶の画業」である。2009年は一蝶が江戸に帰ることができた宝永6年（1709）からちょうど300年。「御赦免300年記念」の展覧会だった。企画自体が洒落ていて、タイトルもポップ。この時は、島暮らしの不自由にもへこたれないうまくましい絵描き、くらいに思って観たが、やはりへこたれることもあったのではないかな。そう思うようになったのは、今回の展覧会が、島での一蝶により注目して展示を組み立てていたからかもしれない。単に、観る方が歳をとったせいかもしれないが…。

いずれにせよ、絵描きの人となりや人生を知ること、絵の見方は変わる。絵を通して、一人の江戸時代人の人生観について考えることもできる。オススメの展覧会である。

2024.9.18 (水) ↓ 11.10 (日)

サントリー美術館
Suntory Museum of Art

英一蝶
はなぶさいっちょう

没後300年記念
風流才子、浮き世を写す

この世は滑稽^{なまごころ}愛だおかし。い。

Hanabusa Itchō
A Talented Man of Great Refinement Depicts the Floating World
—In Commemoration of the 300th Anniversary of His Death

(公式ウェブサイトより)

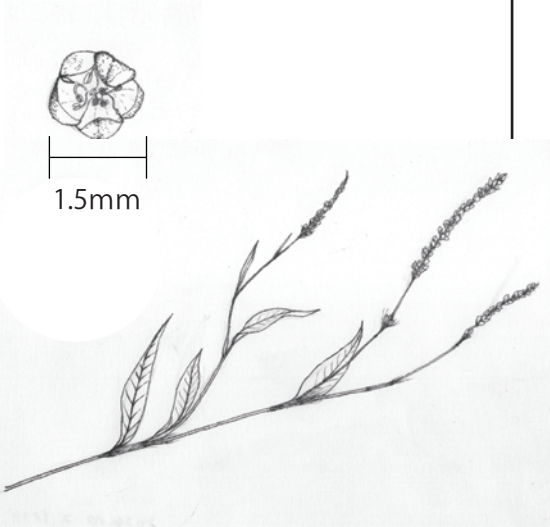
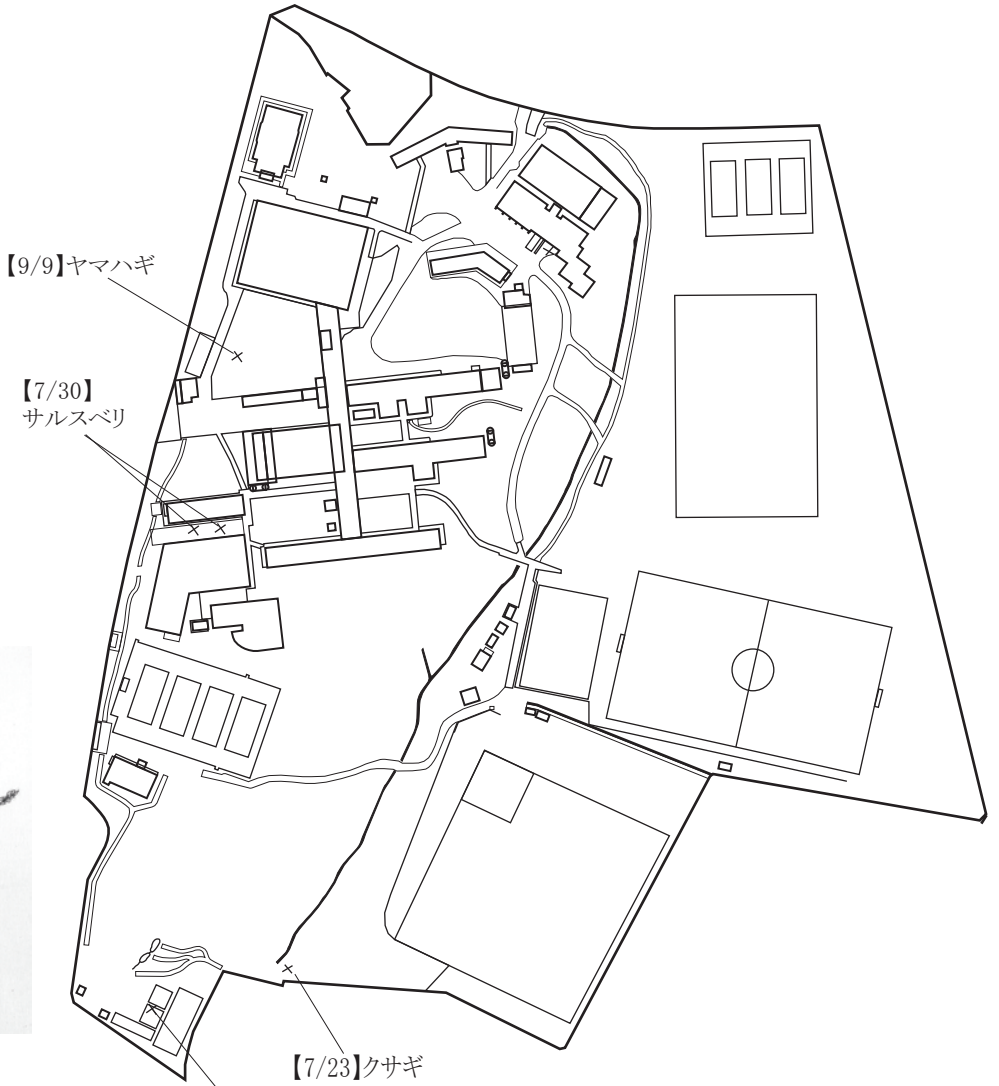
『イヌタデ』. この時期にピンク色の小さい粒が集まったような花を咲かせる草本である. 早いものは6月から咲くが, 本校での盛りは9月のようなのである. 最近, 薬草としての効能をこの紙面で紹介しているが, 「これ」も原色牧野和漢薬草大図鑑(北隆館)によれば, 回虫駆除, 下痢による腹痛, 皮膚病などに用いる. ちなみに, 「イヌ…」と名付けられた植物は多いが, 本来「犬(狗)」は古語で「似て非なるもの」を指し, これが転じて「役に立たないもの」を指すようになったらしい. ただし, 「役に立たない植物はない」と断言しておきたい.

[2024年7月~2024年10月までの開花情報]

Grass

- 23.Jul ヒメムカシヨモギ
- 13.Aug ヒナタイノコゾチ, プタクサ, ヤブラン
- 19.Aug アオゲイトウ
- 9.Sep カラムシ, センニンソウ, ツルボ, チヂミザサ, シロザ, ダンドボロギク
- 16.Sep エノキグサ, ヌスビトハギ, ヨモギ, タケニグサ
- 28.Sep クワクサ, ヒメジソ, ヒガンバナ, アカジソ, クルマムグラ, チカラシバ

Wood



【イヌタデ】
タデ科イヌタデ属

(Miyahashi)

この限られた紙面では, 名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です. 名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください.

執筆・担当区分	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	歴史・美術 (博物館)	原 浩史 (Hara)
	俳句	前北 馨 (Maekita)
	日本文化 (香道)	井之浦 茉里 (Inoura)
	日本文化 (茶道)	池田 卓也 (Ikeda)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)
	植物画・編集	荒巻 知子 (Aramaki)